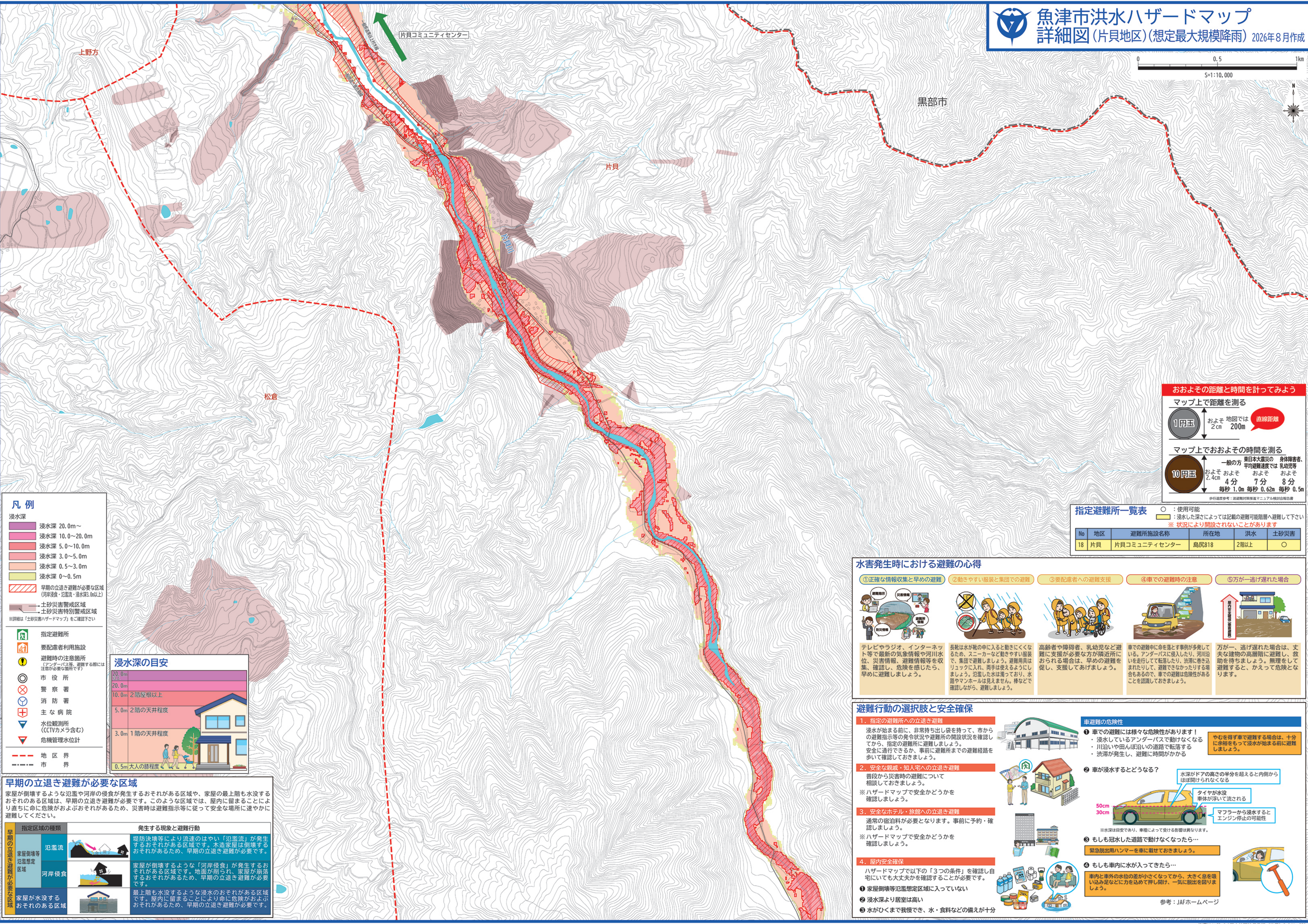
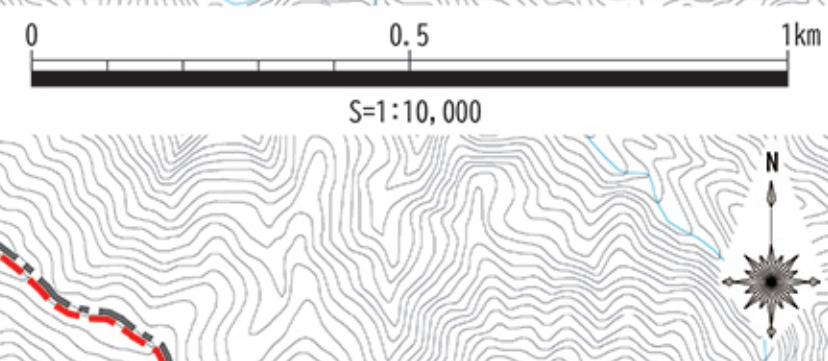




凡 例

浸水深

浸水深 20.0m~
浸水深 10.0~20.0m
浸水深 5.0~10.0m
浸水深 3.0~5.0m
浸水深 0.5~3.0m
浸水深 0~0.5m

早期の立退き避難が必要な区域
(河岸浸食・氾濫流・浸水深3.0m以上)

土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域

※詳細は「土砂災害ハザードマップ」をご確認ください

指定避難所

要配慮者利用施設

避難時の注意箇所
(アンダーパス等、避難する際には注意が必要な箇所です)

市役所

警察署

消防署

主な病院

水位観測所
(CCTVカメラ含む)

危機管理水位計

地区界

市界

浸水深の目安

20.0m以上

20.0m

10.0m

5.0m

3.0m

0.5m

2階屋根以上

2階の天井程度

1階の天井程度

大人の膝程度



おおよその距離と時間を計ってみよう

マップ上で距離を測る

1円玉

おおよそ 2cm

地図では 200m

直線距離

マップ上でおおよその時間を測る

10円玉

一般の方
おおよそ 2.4cm
4分
毎秒 1.0m

東日本大震災の
平均避難速度では
おおよそ 7分
毎秒 0.62m

身体障害者、
乳幼児等
おおよそ 8分
毎秒 0.5m

歩行速度参考：歩道難対応標準マニュアル(国土院)を参照

指定避難所一覧表

○：使用可能
●：浸水した深さによっては記載の避難可能階層へ避難して下さい
※状況により開設されないことがあります

No	地区	避難所施設名称	所在地	洪水	土砂災害
18	片貝	片貝コミュニティセンター	島尻818	2階以上	○

①正確な情報収集と早期の避難

②動きやすい服装と集団での避難

③要配慮者への避難支援

④車での避難時の注意

⑤万が一逃げ遅れた場合



テレビやラジオ、インターネット等で最新の気象情報や河川水位、災害情報、避難情報等を集集、確認し、危険を感じたら、早めに避難しましょう。



長靴は水が靴の中に入ると動きにくくなるため、スニーカーなど動きやすい服装で、集団で避難しましょう。避難用具はリュックに入れ、両手は使えるようにしましょう。氾濫した水は濁っており、水路やマンホールは見えませんが、棒などで確認しながら、避難しましょう。



高齢者や障害者、乳幼児など避難に支援が必要な方が隣近所におられる場合は、早めの避難を促し、支援してあげましょう。



車での避難中に命を落とす事例が多発している。アンダーパスに侵入したり、河川沿いを走行して転落したり、決壊に巻き込まれたりして、避難できなかったりする場合もあるため、車での避難は危険性があることを認識しておきましょう。



万が一、逃げ遅れた場合は、丈夫な建物の高層階に避難し、救助を待ちましょう。無理をして避難すると、かえって危険となります。

避難行動の選択肢と安全確保

1. 指定の避難所への立退き避難

2. 安全な親戚・知人宅への立退き避難

3. 安全なホテル・旅館への立退き避難

4. 屋内安全確保

車避難の危険性

5. もしも冠水した道路で動けなくなったら...

6. もしも車内に水が入ってきたら...

浸水が始まる前に、非常持ち出し袋を持って、市からの避難指示等の発令状況や避難所の開設状況を確認してから、指定の避難所に避難しましょう。安全に通行できるか、事前に避難所までの避難経路を歩いて確認しておきましょう。

普段から災害時の避難について相談しておきましょう。
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

通常の宿泊料が必要となります。事前に予約・確認しましょう。
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫かを確認することが必要です。
① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
② 浸水深より居室は高い
③ 水がひくまで我慢でき、水・食料などの備えが十分

車避難の危険性

① 車での避難には様々な危険性があります！
・ 浸水しているアンダーパスで動けなくなる
・ 川沿いや田んぼ沿いの道路で転落する
・ 決壊が発生し、避難に時間がかかる

② 車が浸水するとどうなる？
水深がドアの高さの半分を超えると内側からほぼ開けられなくなる
タイヤが水波車体が浮いて流される
マフラーから浸水するとエンジン停止の可能性
※水深は目安であり、車種によって受ける影響は異なります。

③ もしも冠水した道路で動けなくなったら...
緊急脱出用ハンマーを車に載せておきましょう。

④ もしも車内に水が入ってきたら...
車内と車外の水位の差が小さくなってから、大きく息を吸い込み足などに力を込めて押し開け、一気に脱出を図りましょう。

参考：JAFホームページ

早期の立退き避難が必要な区域

指定区域の種類

発生する現象と避難行動

早期の立退き避難が必要な区域

家屋倒壊等氾濫想定区域

家屋が水没するおそれがある区域

氾濫流

堤防決壊等により流速のはやい「氾濫流」が発生するおそれがある区域です。木造家屋は倒壊するおそれがあるため、早期の立退き避難が必要です。

河岸侵食

家屋が倒壊するような「河岸侵食」が発生するおそれがある区域です。地面が崩れ、家屋が崩落するおそれがあるため、早期の立退き避難が必要です。

家屋が水没するおそれがある区域

最上階も水没するような浸水のおそれがある区域です。屋内に留まることにより命に危険がおよぼおそれがあるため、早期の立退き避難が必要です。

測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R 8JHs 270